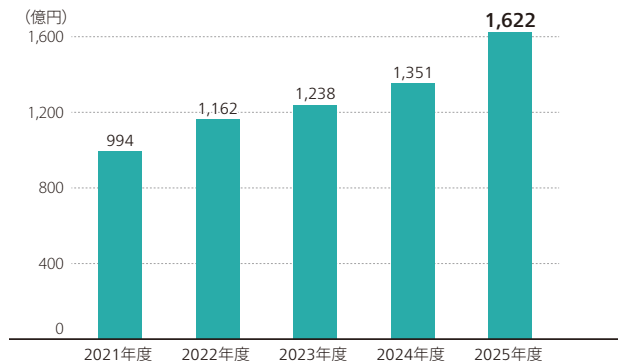


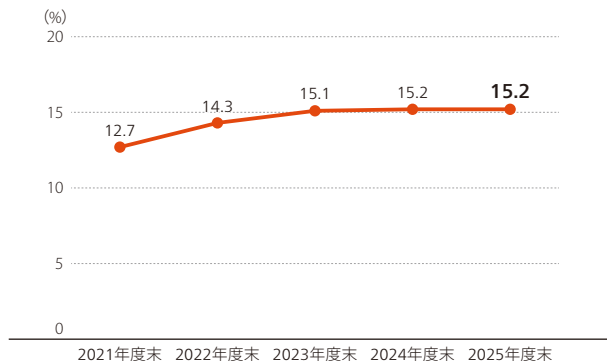
財務ハイライト

親会社株主に帰属する当期純利益



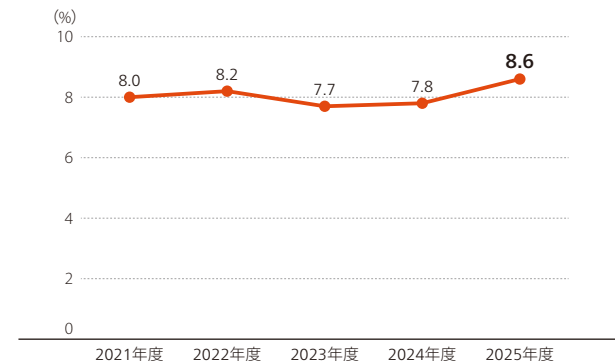
不動産セグメントにおいて複数の大口売却益の計上などにより増益となったことや、航空セグメントの好調な推移、海外カスタマーセグメントにおける貸倒関連費用の減少などにより、当期純利益は前年度比270億円増益の1,622億円となり、4期連続で過去最高益を更新しました。

自己資本比率



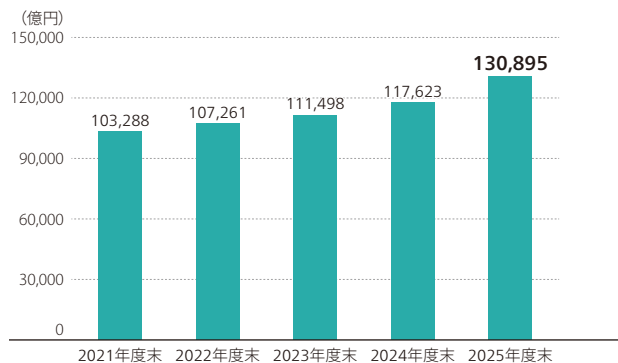
「成長性」「資本収益性」「財務健全性」の3つの視点でバランスを確保した上で、事業ポートフォリオの入れ替えによるリスク量の増加に応じた最適な資本構成の実現をめざします。

ROE



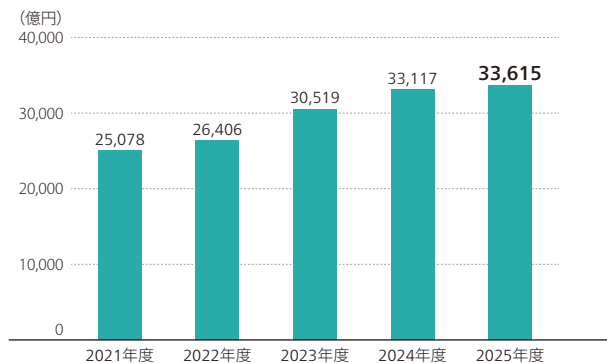
当期純利益の増益により前年度比0.8ポイント改善の8.6%となりましたが、2025年度の適用為替レートが期初想定より円安に推移し、自己資本が想定より増加した一方で、純利益は期初計画と同水準にとどまったため、期初計画であった8.8%に対しては未達となりました。

総資産



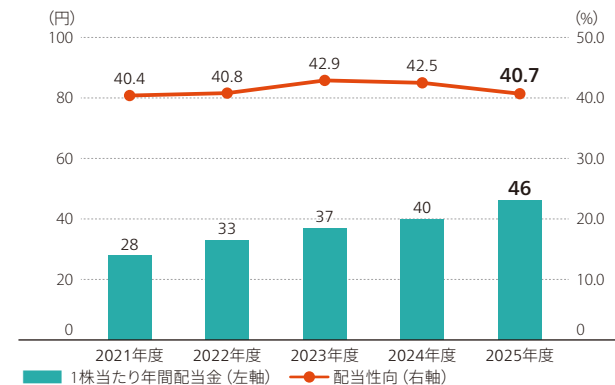
円安による為替影響のほか、海外カスタマーセグメントの欧州事業や航空・不動産セグメントにおける資産の積み上げなどにより、総資産は前年度比1兆3,272億円増加の13兆895億円となりました。

契約実行高



前年度にロジスティクスセグメントで実施した大型投資の反動減があったものの、海外カスタマーセグメントの欧州事業やカスタマーソリューション・不動産セグメントなどで契約実行が増加したことにより、契約実行高は前年度と同水準の3兆3,615億円となりました。

配当金／配当性向



当社の株主還元は配当によって行うことを基本としています。2025中計期間中(2023～2025年度)は配当性向の目標を40%以上としており、利益成長を通じて配当総額を高め、27期連続増配を実現しました。